平成 29 年度 第5回 伊勢市障害者施策推進協議会自立支援部会 議事録(要旨)

開催日時　平成 29 年 10 月 16 日(月) 午前 10 時～12時
開催場所　ハートプラザみその 保健会議室
出席委員　市川知律部会長、嶋垣智之委員、浦田宗昭委員、森見典子委員、
光山佳津美委員、鬼頭由華委員
事務局　障がい福祉課長、、障がい福祉係長、主査
(庶務担当)伊勢市障害者総合相談支援センター基幹型職員 2 名
傍聴者　0名

1 あいさつ

2 第 5 期障害福祉計画・第 1 期障害児福祉計画(案)について
●事務局より、資料にもとづき説明。
・今後のスケージュールについては、本日案の確定後、施策推進協議会本会で協議後、パブリックコメントを 12 月に行い、再度 1 月の施策推進協議会にて最終案が確定となる予定。
・前回部会の各委員の意見を入れて修正した。障がい児の支援体制の方策については、こども発達支援室と協議し記述を追加。
・本計画の進行管理は、伊勢市が行うとともに、伊勢市障害者施策推進協議会にて点検･評価を行う事となっている。
【各委員の主な意見】
(部会長)重点取り組みとなっている差別解消については、施策推進協議会は差別解消地域支援協議会も兼ねているので、施策推進協議会にて協議をしますと記入し、任意設置である協議会があるということを確認出来た方が良い。
(委員)相談支援の周知啓発が不十分で、基幹相談と委託相談の違いがわからなかったり、計画相談は分りやすいが、委託相談が何をしてくれるのかわかりにくいとの声も聞く。折にふれて理解促進が必要。
(委員)居宅介護・移動支援は、従事者･事業者ともに確保が課題となっている、と表記した方が良い。
(委員)居場所つくり・余暇について、居場所を作っていく事が大事である。どのような居場所が求められているかが、記載内容では分りにくい。
(事務局)自発的活動支援事業として、自発的な活動への補助金を今年度から行っている。対応しきれていないニーズがあれば、提案して頂きたい。
(委員)身体障害の方に比べ、知的･精神の方が楽しめる資源は少ない。この計画で居場所にてスポーツや趣味を出来るようにしていけると良い。社会参加促進が重要。
(事務局)とこわか国体・とこわか大会を控えており、県も力を入れている。スポーツは障害者計画でも記載されており、スポーツ課など他課とも連携して、障害者計画のほうで取り組みたい。
(委員)居場所の考え方として、場所だけで考えるのではなく、社会の中での居場所が重要であり、それは役割、達成感、そこから仕事や趣味へと繋がっていくものである。居場所、働く、

趣味など分けるのではなく、トータル的な考え方が重要である。また、働けないと趣味をしてはいけないというような事ではいけない。

(委員)スポーツ選手そのものへの補助はあるが、家族へのサポートが無い。安心して楽しめるような、遠征費用、送迎費用も含めて考える必要がある。支えてくれている人への支援も考える必要があり、今後の障害者計画でも入れて頂きたい。

(部会長)本日の意見等を踏まえた最終的な修正については、部会長一任としたい。。

3　地域生活支援拠点について

〇拠点チーム担当委員より、会議の内容等を以下のように報告。

(委員)ニーズ調査結果アンケート結果について。

・当事者・家族会は、7団体にヒアリング。サービス事業所等アンケートは、回収率（入所・通所系 57%、居宅訪問系 43%、相談支援系 79%、訪問看護 24%）

・優先整備機能は、緊急対応機能および相談支援機能（緊急対応）というニーズが多かった。緊急対応機能は、24 時間対応のヘルパー、いつでも利用できる短期入所、緊急事態に気付いてくれる人などが重要だとの意見があった。

・体験機能は、グループホームの体験希望が一番多かった。体験する上で、本人への適切な人員体制が重要との声だった。

・チームの今後については、まずニーズ調査から始まると又村氏からのアドバイスもあったので、今後も情報を集めながら進めていく必要がある。

【各委員の主な意見】

(委員)ニーズ調査は想定通りの結果。一方、社会資源側の調査をする必要がある。

(委員)調査のなかで地域生活支援拠点事業の説明を求める声も高く、一人一人が拠点の必要性を理解する必要がある。拠点のイメージが定まっていなかったため、回答の趣旨が違う部分もあった。もう一度、イメージ共通化してからのアンケートが必要かもしれない。

(委員)障がい児の医療的なケアの緊急時対応が課題になっており、地域生活支援拠点でもどのようにサポートしていくかの検討をしている。

(委員)医療的ケアの協議の場に、拠点チームが参加する等も必要かも。緊急時の受入れについては、伊勢病院と連携出来ないかとも話している。進めるには、伊勢市の中核的な支援が無いと難しい。部会レベルでは意見を提案していくという形になる。

(部会長)不安相談との区分けが必要。精神障がいの方等の不安相談については、拠点相談と区分けをして連携していく必要がある。緊急対応と傾聴を区分けし、よりそいホットライン等に繋げるなど、拠点機能に焦点化できる仕組み作りも必要だろう。不安のある本人は全てが緊急に違いないので、集積して交通整理が必要。

(委員)こんな時には、こんな相談窓口等の一覧をみんなが持っていると良い。

(部会長)部会とチームの連携について、部会はプロジェクトチームの内容報告を聞くだけでなく、部会とチームが一体感を持てる事が重要。必要なら合同会議や、周知を促す取組みを部会と協同でしたりなど、連携が必要だろう。

3．その他

〇ライブスペース 伊っ勢の！について、部会から派遣している実行委員からの報告。

（委員）実行委員会は、親の会、ミューズラボ、社会福祉協議会、三重済美学院、コンビニネット、自立支援部会代表などで実施。障がいの有無に関わらず、ジャンルや世代を超えて誰でも参加しながら、音楽を通じて交流機会をもつという目的や、役割りの確認や、出演募集はまだ間に合う等を確認した。本番は、平成 30 年 1 月 7 日 13;30～（いせトピア）。今後も、月 1 回実行委員会開催予定。

（事務局）　次回部会は、12 月 5 日（火）13:30 から　御薗総合支所、会議室 2－4